

青年と志

同志社大学総長・理事長
八田 英二

青春の日々にこそ、お前の創造主に心を留めよ。

苦しみの日々が来ないうちに。

「年を重ねることに喜びはない」と

言う年齢にならないうちに。

(コヘレトの言葉 12章 1節)

ただいまご紹介に預かりました学校法人同志社総長・理事長の八田です。学生のみなさんには入学式と卒業式にはお会いしますが、それ以外にはなかなかみなさんとお話をする、私からお話をする機会は少ないと思います。今日は「チャペル・アワー」で学生のみなさんとお話ができることを喜んでおります。ここ同志社礼拝堂は重要文化財です。私はこの横にありました同志社中学校の卒業生です、1961年に入学、3年間、毎朝、このチャペルで礼拝を行っていました。思い出深いこのチャペルでお話できることを喜んでおります。

ご存じのように、みなさんから見て右側に新島襄の肖像画が掲げられています。同じく新島襄が卒業したアーモスト大学のジョンソン・チャペルにも同じ位置に新島襄の肖像画が掲げられています。将来、アーモスト大学に行く機会がありましたら、ぜひともジョンソン・チャペルにありますので、ご覧いただきたいと思います。

みなさんから見て左側に2枚、肖像画がかかっています。同志社の設立に力を貸したデイヴィス宣教師ともう一人が山本覚馬、この3人によって同志社ができ上がりました。

あとの肖像画は誰か、ご存じでしょうか。歴代の総長の肖像画がかかっています。2代目が小崎弘道。3代目が横井時雄。4代目、西原清東。5代目、片岡健吉。6代目、下村孝太郎。7代目、原田助。8代目、海老名弾正。9代目、大工原銀太郎。10代目、湯浅八郎。11代目、牧野虎次。もう一回、湯浅八郎になり、その後、大塚節治。住谷悦治。上野直蔵。松山義則。大谷實、そして私が第18代目の総長となっています。同志社はちょうど今年で150周年という記念すべき時を迎えようとしております。

今日はみなさんに「青年と志」という話をしてみたいと思います。「志」というと、それと似たような言葉で「夢」という言葉があります。今日は「夢」と「志」の違いについてお話をしてみたいと思います。そしてみなさんには、ぜひとも「志」をもっていただきたいと思います。同志社の真ん中は「志」という字が入っています。このような話をしてみたいと思います。

それに先立ちまして少し、「志」「夢」を絶たれてしまった青年たちがいたこと。この話をしてみたいと思います。ご存じのように20年前、福知山線脱線事故がありました。先日、ニュースでも取り上げられておりました。20年前の4月25日、尼崎駅の手前で福知山線の脱線事故がありました。残念なことに、3名の同志社の女子学生が亡くなりました。ご存じかもしれません。20年前ですから、みなさんは、まだ生まれる前かもしれません。4月25日、私はその時、同志社大学の学長をしておりました。大学は月曜日と木曜日が会議日で、月曜日でしたから学長を中心とした会議が10時から予定されていました。会議の最中に「どうも大きな脱線事故があった。同志社の学生が犠牲になったらし

い」という連絡がありました。最初に2名の学生が亡くなったという連絡がありました。そして2日後に、もう1名が亡くなった。計3名の女子学生が若い命を絶たれてしまいました。

その後、4月28日。ゴールデンウィークが始まるということで、しばらく故郷に帰る学生もいました。4月28日に仙台の実家に帰る途中の学生が磐越自動車道バス事故に遭いました。近鉄バスの高速バス、これに一人、学生が乗っていて事故に遭い、若い命を絶たれてしまいました。このように私が学長の時、4名の学生が天国に召されました。大きな夢をもって、志をもって同志社に入ってきた学生が命を絶たれるという出来事がありました。その後、追悼礼拝もありました。私も、すべて参加させていただき、お通夜やご葬儀にも参加させていただきました。女子学生の一人は関西大学の付属高校出身だったのですが、その学生のお母さまが「あの時、関西大学に行っていれば、こんなことにならなかったのに」と涙ぐんでおられたことを今でも覚えております。4名の学生が天国に召されてしまった。彼らは大きな夢をもって、そして志をもって同志社に入ってきたのに、その夢を叶えることができなかった。志を果たすことができなかったという、私の心にどうしても忘れることができない出来事として、今でも胸に刻み、ありありと覚えております。彼らの「夢」「志」を考えるということで、今日は「夢」「志」について、少しみなさんにお話をしておきたいということで、このタイトルを選ばせていただきました。

「志」ということについて新島に関するお話をしてみたいと思います。新島は17歳の時、江戸湾に浮かぶオランダ軍艦を見て非常に驚きました。西洋文化は発達している。今までは漢詩や論語を読んでいた。馬術や剣道を勉強していましたが、オランダ軍艦の威容を見て「西洋の文化を勉強したい」ということで語学を勉強し、航海術を勉強しました。蘭学に目覚めたのも17歳の時でした。そして21歳の時、1864年6月14日、函館から夜陰に紛れて脱国をいたしました。乗った船は「ベルリン号」。セイヴォリーという船長で、彼に脱国ための手助けをしてもらいました。結局、セイヴォリーは海外渡航を禁止されている日本の青年を船に乗せたということで船会社をクビになってしまいます。その後、新島は「ベルリン号」で上海へ行き、上海で船を乗り換えました。乗った船が「ワイルド・ローヴァー号」。船長はテイラー船長です。この「ワイルド・ローヴァー号」の名をとって同志社のアメリカンフットボール部は「ワイルド・ローヴァー」という名がついています。1年かけて新島はボストンに入りました。「フィリップス・アカデミー」という高等学校、「アーモスト・カレッジ」という大学、そして「アンドーヴァー神学校」で準宣教師の資格をとります。そして31歳の時、1874年、日本に帰る時、彼は大きな自分の人生計画、これを「志」といいたいと思いますが、「志」の話をしました。その話をしたのはアメリカのヴァーモント州・ラットランドのグレイス教会という教会で、彼は自らの大きな「志」を会衆派のクリスチャンの方々にお話しました。グレイス教会という名前は同志社にもあります。同志社中高の出身者をご存じでしょうか。同志社中高のチャペルはグレイスチャペルという名前がついています。グレイス教会で、日本に準宣教師として帰国する前に新島は自分の大きな人生計画、「志」を話しました。

「自分は日本に帰ってキリスト教主義の大学をつくりたい。そのためにアメリカのプロテスタント、改宗派の方々に献金、寄付をお願いしたい」ということを涙ながらに話しました。そして「寄付をいただけるまで私は、この壇上を降りることができない」と熱っぽく語りました。それに感動してアメリカのプロテスタント、会衆派の方々は5000ドルの寄付をしてくれました。

1874年当時の5000ドルは今のいくらになるのか。明治7年の1ドルは、日本銀行の調べによると0.98円ですので、ほぼ1円になります。当時の1円は今、いくらか。役人の初任給で換算すると今の1億円になります。1874年当時、日本がどこにあるとか、どんな国かも知らないにもかかわらず、

新島の「日本にキリスト教主義の大学をつくりたい。そのために寄付をお願いしたい」という「志」に1億円もの寄付をしてくださいました。その1億円をもって準宣教師として新島は日本に帰り、その年の11月29日、今から150年前、京都に同志社英学校をつくりました。

教師はデイヴィスと新島の2名、学生は8名という陣容で同志社は始まりました。このような新島の大きな「志」、これが基盤となり、同志社英学校ができました。同志社はそのような「志」を中心とした学校であることを、みなさまにはぜひとも理解していただきたいと思います。

私は、入学式でもお話をさせていただきましたが、同志社は学生たち青年の「志」、その実現を大事にする、大切に教育組織であることをお話したいと思います。「夢」と「志」は、どのように違うのか、考えてみられたことはあるでしょうか。「夢」は個人的な願望、個人的な目標、非常に抽象的なものです。たとえば「自分は将来、学者になりたい」「自分は将来、東京に住みたい」「自分は将来、歯医者さんになりたい」とか、これは「夢」だと思います。では「志」は何でしょうか。「志」は個人的な願望ではなく、「夢が実現した後、自分は社会をこのように変えていきたい、自分の人生をこのように変えていきたい」という「夢の実現」、夢の向こうを視野に入れた、それぞれの人の考えを「志」というのではないかと思います。「夢」を他の人が受け継ぐことはできません。その人の個人的な願望です。「志」は他の人も受け継ぐことができます。「夢」を実現した後、「社会をこのように変えていきたい」という「志」、新島の「志」、これは今の同志社の教職員たちも、受け継いでおります。

「国家を維持するは、二、三英雄の力にあらず。知識あり、品行あり、教育あり、自ら治むるの人民による」。この新島の「志」を私たち教職員も受け継いでおります。このような「志」をみなさん、大事にさせていただきたい。「自分は将来、会社員になりたい。東京で働きたい」、これは「夢」だと思います。みなさんは自分の夢を実現した後、自分の人生をどのように変えたいのか、どのように生きていきたいか。それを見据えた心構えて、この4年間、大学で勉強していただきたいと思います。

「夢」というのは dream、「志」は will、「決定」determination も「志」になると思います。「熱望」は aspiration、これも「志」にあてはまると思います。「野心」の ambition も「志」になると思います。ぜひともみなさんには「夢」ではなく「志」をもっていただきたい。「夢」の向こうに、「夢」を実現した後、自分の人生をどのようにしていくのか、それによって社会をどう変えていくのか、そのような「夢」の向こうを念頭において、1年生ならあと4年間、3年生ならあと2年間、「志」をもって今後の大学生生活を送っていただきたいと思います。

同志社はそのような「青年の志」を大事にする機関、「志」を果たそうというみなさま方に在学中の4年間、有意義に過ごしていただける教育環境を、これからもつくっていききたいと思います。「夢」をもつと同時に「夢」を実現した後、それを使って社会をどう変えていくのか、あるいは自分の人生をどう生きていくのか、ぜひともそういう「志」をもって、これからの同志社の学生生活を有意義に送っていただきたい、そのように思います。みなさんの有意義な学生生活を過ごされることをお祈りしております。ご清聴ありがとうございました。